

vol.19

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity

NEWSLETTER



関西大学
イノベーション創生センター
創設10周年にあたって



Beyond Innovation

Beyond Innovation

KUCICさらなる10年に向けて

関西大学イノベーション創生センター(KUCIC)は2026年、創設10周年を迎えた。この10年間で、大学を取り巻く環境は大きく変化し、研究成果の社会実装やアントレプレナーシップ教育は、多くの大学にとって重要な使命となった。関西大学は何を目指し、どのような価値を生み出してきたのか。高橋智幸学長と石川正司センター長が、研究力、教育、社会実装、そして次の10年への展望を語り合った。

研究力の向上が大学の未来を決める

石川 まず、関西大学の今後を考えるうえで、学長が特に重視されていることをお聞かせください。

高橋 一番は「研究力」の向上です。優れた研究があつてこそ、専門性の高い教育が可能となり、実践的な社会貢献にもつながります。受験生も産業界も、大学の教育だけでなく、そこにどのような研究力があり、何ができるのかを重視するようになっています。

石川 大学の競争力そのものに直結するということですね。

高橋 その通りです。関西大学には優れた研究者が数多くいます。その力をさらに伸ばし、「関西大学の研究といえばこれ」と国内外から認知されるようなフラッグシップ研究を増やしたいと考えています。そのためには、研究者同士や企業との連携・協働を促す仕組み、研究支援制度の充実、研究成果を社会へ広く届ける仕組みが必要です。

10年前は先駆者、今はその先を競う時代へ

石川 KUCIC創設当時、大学がアントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援に本格的に取り組むことは、今ほど一般的ではありませんでした。その意味で、関西大学は少し先を走っていたと思います。

高橋 関西大学は学是として「学の実化(がくのじつげ)※1」を掲げ、教育研究活動を展開しています。研究を論文や学会で発表するだけではなく、社会にどう役立てるかという考え方はまさに「学の実化」であり、KUCICができたことで、学内に「研究の先には社会実装やイノベーションがある」という空気が、加速度をつけて浸透していったと感じています。

石川 一方で、この10年で大学を取り巻く状況は一変しました。特に大学の研究を社会実装につなぐスピードは、けた違いに上がった。図らずもそれは学是の普遍性と、KUCIC創設という選択の正しさを証明しましたが、同時に、今ではさらにその先へ進むことが求められています。研究力だけでなく、社会実装のスピードや質も問われる時代です。

「シーズを待つ」のではなく、「シーズを探しに行く」

石川 また、教員や大学院生、学生のスタートアップや社会実装に対する意識が変わって

きました。優れた技術があるだけで事業化できるわけではありません。経営人材、ベンチャーキャピタル、支援スタッフなど、多くの人との縁が必要です。KUCICは、研究室の中だけでは得られない「人、資金、知識」を結び付ける役割を担っています。

高橋 研究者の可能性を広げる存在ですね。

石川 はい。また、社会実装の可能性は理系研究だけにあるわけではありません。KUCICでは、「KUGAP※2」というGAPファンドプログラムを運営していますが、その対象には文系領域の研究も含まれています。文理問わず、研究成果やアイデアの中にあるさまざまな「種(シーズ)」を、まだ粗削りな段階から見つけ、一緒に磨き上げていく。「シーズを待つ」のではなく、「シーズを探しに行く」ことが重要です。

高橋 非常に重要な視点です。研究者自身がまだ気づいていない可能性に対して、それを言語化・見える化して背中を押す人が必要です。KUCICには、研究者のポテンシャルを社会的インパクトへ変える「起爆剤」としての役割を期待しています。

研究が教育になり、多様な知が融合する

高橋 私がKUCICの活動で惹かれているものの一つに「SFinX(スフィンクス※3)」があります。本学の理系の技術シーズをテーマに学生たちのビジネスアイデアを競うコン

テストで、総合大学である関西大学だからこそできるプログラムです。

石川 そうですね。さきほど話題にあつたKUGAPでは、文理問わず様々な分野から想定しなかったアイデアが出てきて、そこから融合が生まれると確信しています。このように、横展開ができることこそ関西大学の強みであると考えます。

高橋 関西大学には多様な学部と研究領域があります。異なる知識や人材がつながり、融合することに大きな可能性があります。優れた技術だけでは新しい価値にはなりません。分野を越えた出会いと協働によって、初めてイノベーションが生まれるのです。その経験を積んだ学生が社会へ出ることで、新しい価値がさらに広がっていくと期待しています。

次の10年へ、新たな市場を創る

高橋 次の10年に向けて、KUCICには、まず、5年後、10年後の理想像を描いてほしいと思います。現在の延長線上で考えるフォアキャストだけでなく、理想の未来から逆算するバックキャストが必要です。究極的には、「関西大学の研究によって新しいマーケットが生まれた」と言われるところまで目指してほしい。これまで社会に存在しなかった価値を創造し、新たな産業につなげることが、イノベーション創生の本質だと思います。

石川 そのためには、長期的な取り組みが欠かせません。資金だけでなく、研究と社会実装をつなぐ専門人材を継続的に育て、大学の財産として蓄積する必要があります。10年後には、KUCICの支援を受けて成果を上げた教員や学生が、今度は後輩を育てる側として戻ってくる。教員、学生、職員、卒業生、企業、地域社会がつながり、知識と経験が次世代へ受け継がれる循環をつくりたいと思っています。

創設から10年。イノベーション創生センターは、研究と社会、教育と挑戦、人と人をつなぐハブとして進化を続けてきた。そして次の10年、その先に見据えるのは、関西大学発の研究から新たな価値を創造し、社会を変えていく未来である。「挑戦を応援する大学」として、関西大学の新たな歩みはこれからも続いていく。

※1 学の実化:大学は教育研究に実社会の知識や経験を取り入れ、社会は大学の学術研究の成果を取り入れることによって、「学理と実際のとの調和」を求める考え方。提唱されてから100年が経った現在も、関西大学が進むべき方向を指し示す羅針盤としての役割を果たしている。

※2 KUGAP(関西大学GAPプログラム):関西大学の研究成果を事業化するにあたり、その間にある「ギャップ」を埋めるための試作品製作やマーケティング等の資金支援を含めた関西大学独自の支援プログラム。

※3 SFinX(Sciences Fusion in X):関西大学の理工系学部の研究技術シーズをもとに、社会科学(Social Science)、自然科学(Natural Science)などさまざまなアプローチからビジネスアイデアを競うコンテスト。(2018~2025年実施)

PROFILE

高橋 智幸 たかはし ともゆき
関西大学第44代学長

1967年 山形県山形市生まれ
1991年 東北大学工学部卒業
1993年 東北大学大学院工学研究科博士課程後期中途退学
東北大学工学部助手
1998年 東北大学博士(工学)
京都大学防災研究所助手
2002年 秋田大学工学資源学部助教授
2010年 関西大学社会安全学部教授
2018年 関西大学社会安全学部長
2020年 関西大学副学長
2024年10月~現在 関西大学学長

専門は水災害。
学外での主な役職に、大学コンソーシアム大阪理事長、日本私立大学連盟常務理事、大学基準協会理事、文部科学省地震調査研究推進本部委員、原子力規制委員会原子炉安全専門審査会・核燃料安全専門審査会臨時委員、高槻市都市計画審議会委員など。

関西大学学長

高橋 智幸

Tomoyuki Takahashi

KUCICセンター長

石川 正司

Masashi Ishikawa

PROFILE

石川 正司 いしかわ まさし
関西大学イノベーション創生センター長

1962年 兵庫県西宮市生まれ
1987年 大阪大学大学院工学研究科修士
1991年 企業研究所を経て
大阪大学より工学博士取得
1997年 山口大学助教授
2000年 ミネソタ州立大学客員助教授
2003年 関西大学工学部(現・化学生命工学部)助教授
2005年 関西大学工学部教授
2009年 関西大学先端科学技術推進機構長
2014年 大学発スタートアップである株式会社アイ・エレクトロライトを設立しCEO就任
2016年4月~現在 関西大学イノベーション創生センター長

専門は蓄電池など電気エネルギー材料化学。
文部科学大臣表彰(2012年)、加藤記念賞(2024年)をはじめ多数の賞を受賞。

イノベーション創生センター10年間の歩み

2016~2017

基盤整備期

施設設備を整えた産学官連携拠点の設立と
アントレプレナーシップ醸成プログラムの整備

- **2016.4**
産学官連携・大学発スタートアップ支援・
文理融合を一体的に推進する
先進的な拠点として
イノベーション創生センターを創設
創設記念シンポジウムを開催
- **2016.9**
イノベーション創生センターが竣工
竣工記念シンポジウムを開催
**大学発スタートアップ・企業・研究者の
入居開始**
- **2017.4**
センター利用者同士の
交流を目的に、
入居企業・研究者交流会を開始
- **2017.4**
法務・資金調達・会社設立など
起業に必要な知識・スキルを学ぶ
起業サポートシリーズを開始
- **2017.5**
若手起業家・経営者によるセミナー
「**イノバイターズトーク**」を開始
現在までに40回以上開催し、
累計1000人を超える学生が参加
- **2017.6**
先進的な取組みを展開する
企業を訪問し、新規事業
立ち上げ等について学ぶ
企業見学会シリーズを開始
- **2017.9**
「**KU-CIC News Letter**」の創刊により、
センター活動の発信を開始
創設1周年記念シンポジウムを開催



創設記念シンポジウム



入居企業・研究者交流会



起業サポート
シリーズ



イノバイターズトーク



企業見学会シリーズ

2018~2020

起業支援体制構築期

研究者・学生に向けた起業支援体制の構築と
ネットワークの形成

- **2018.2**
本学の技術シーズを基に
ビジネスアイデアを競う
ビジネスアイデアコンテスト
「**SFinX(スフィンクス)**」を創設
毎年8月に最終審査会を実施し、
学生起業支援の中心事業となる
- **2018.3**
本学出身の起業家による
ネットワーク構築を目指し、
**第1回起業家交流会を
東京センターで開催**
- **2018.6**
イノベーション創生センター公認
学生コミュニティ「**Mission Lounge**」を発足し、
起業を志す学生同士のつながりを形成
- **2018.9**
起業後1年未満のスタートアップを対象に
信託方式を導入した関西大学独自の資金支援制度として、
関西大学起業資金支援制度を創設
- **2020.1**
センターに設置された研究設備及び機器の有効活用を目的として、
学内外に貸与・共同利用する
研究設備及び機器の共同利用制度を開始
- **2020.6**
大学発ベンチャー創出支援担当URAが着任し、伴走支援を開始
- **2020.10**
独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)との連携により、
大学として全国初となる
INPIT大阪府知財総合支援窓口(臨時窓口) in 関西大学を開始
- **2020~2021**
コロナ禍への対応により、各種イベントや支援をオンライン化
参加者数や開催頻度を減らすことなく支援を継続



ビジネスアイデア
コンテスト
「SFinX(スフィンクス)」



第1回起業家交流会

2021~2023

エコシステム形成期

エコシステム形成に寄与し、
大学発スタートアップ創出支援を加速

- **2021.3**
京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)の参画大学として、
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による
「**社会還元加速プログラム(SCORE)大学推進型**」事業に採択
- **2021.10**
京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)の参画大学として、
JSTによる**大学発新産業創出プログラム(START)大学・エコシステム
推進型「スタートアップ・エコシステム形成支援」**事業に採択
- **2022.3**
竣工5周年記念号
「**KU-CIC News Letter**」Vol.10
(2022年3月発行)を発行
- **2022.9**
Garage Minato、Garage Taishoと
連携協力協定を締結し、
「**ものづくり支援・共創窓口**」を設置
実証実験やプロトタイプ製作支援により
研究シーズの事業化を後押し
- **2022.10**
学長諮問に対する**アントレプレナーシップ醸成施策の推進と
起業家創出・支援に向けたビジョン策定及び充実策を答申**
- **2023.4**
関西大学GAPプログラム(KUGAP)を開始
現在までに17件を採択し、
うち5件が起業
- **2023.5**
学生がスタートアップへの理解を深め、
アイデア発想法や
プレゼンスキルを学ぶ**イノベーション創出に向けたセミナーを開始**
- **2023.12**
アントレプレナーシップ醸成推進を全学で協議し、
新たな施策の企画・立案を行うことを目的として
アントレプレナーシップ推進協議会が発足



KU-CIC
News Letter
Vol.10



「ものづくり支援・共創窓口」を設置



関西大学
GAPプログラム
(KUGAP)

2024~2026

大学発スタートアップ創出期

大学発スタートアップ創出のための機運醸成と
事業化に向けた支援体制の強化

- **2024.1**
関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)の参画大学として、
JSTによる**大学発新産業創出基金事業**
「**スタートアップ・エコシステム共創プログラム**」に採択
- **2024.1**
「**KSACものづくり支援窓口**」を設置し、
相談対象をKSAC参画大学の研究者にも拡大
- **2024.4**
起業支援人材を増員し、事業化に向けた支援体制を強化
- **2025.4**
本学発スタートアップの育成に資することを目的とした
新株予約権等制度を創設
- **2025.5**
日本の大学として初めてインド工科大学ルールキー校の
イノベーション支援機関であるiHUB DivyaSamparkと部局間協定締結
- **2025.6**
令和6年度経済産業省**大学発ベンチャー実態等調査**にて、
大学発ベンチャー数の**前年度比増加率第1位**を獲得
- **2025.8**
EXPO2025大阪・関西万博大阪・ヘルスケアパビリオン「**関西大学リボーン
チャレンジ**」にセンターを拠点に活動する**入居企業6社***が**出展**
※株式会社アイ・エレクトロライト、株式会社イノカ、大阪冶金興業株式会社、
株式会社KUREi、Cranebio株式会社、株式会社ナノスパイク
- **2025.9**
研究者の起業機運醸成を目的に
研究者向けセミナーを開始
- **2026.3**
起業のながれや支援制度等起業のいろはを
一冊にまとめた「**起業ハンドブック**」を発刊
- **2026.8**
より事業化を視野に入れた案件発掘を目指し、
関西大学GAPプログラム(KUGAP)をリニューアル
- **2026.9**
創設10周年を迎え、記念シンポジウムを開催



研究者向け
セミナー



起業ハンドブック

数字で見るKUCICの10年

(2026年8月31日現在)

アントレプレナーシップ醸成イベント参加者数
(延べ)

2,804名

KUCICが主催する学生向けイベント

- イノバイターズトーク 1,041名
- ビジネスアイデアコンテスト「SFinX」..... 96チーム 423名
- 企業見学会シリーズ 16回 275名
- 起業サポートシリーズ 11回 162名
- その他イベント 49回 903名

大学発ベンチャー数
増加率

1位

経済産業省「令和6年度大学発
ベンチャー実態等調査」において、
前年度と比較した大学発ベンチャー数増加率で
関西大学が全国第1位を獲得
(経済産業省webサイトより)

関大発スタートアップ企業による
知財出願件数

40件

出願件数のうち登録36件
(関大発スタートアップへの
アンケート調査による集計)

KUCIC
利用者数(累計)

7,104名

KUCIC施設利用実績

- 学内研究者(入居) 61名
 - 入居企業連携研究員等 274名
 - 入居研究室所属学生 3,697名
 - イベント等の施設利用者 3,072名
- (各利用申請書により集計)

関大発
スタートアップ企業

16社

関西大学の研究成果や技術を用いて
事業化した企業数
(うち関西大学GAPプログラム
(KUGAP)から生まれた
法人 5社)

■ KUGAPから生まれた法人(5社のうち入居企業)紹介

株式会社ナノスパイク
取締役CSO 伊藤 健
(関西大学システム理工学部教授)



細菌を物理的に死滅させるナノレベルの
突起「ナノスパイク®」を持つシートを医療
機器などに応用する事業です。KUGAP
を採択を機に、会社設立や万博出展など、
社会実装に向けて弾みがつかしました。

一般社団法人身体性総合研究所(WIRE)
代表理事 三村 尚彦
(関西大学文学部教授)



AIが捉えきれない人間の根源的感覚「身体
性=感じて考える力」を、学術的に企業の
商品・サービス開発支援に活用する法人を
設立しました。KUGAPは、文系領域の研究
を社会実装できる道を開いてくれました。

関西大学GAPプログラム (KUGAP)

2027年度よりリニューアルします!!

主な変更点

01

応募方法



簡素化

申請書類の記入内容を簡素化しました。

02

申請枠



教員コースと院生コースを設置

教員と大学院生に分けて募集します。

03

審査方法



対面審査

プレゼンテーションを行うことにより、学内外の審査員が審査します。

実施概要

【KUGAPとは?】

本学の研究成果をもとに起業や事業化を目指す萌芽的な取り組みへの支援を行い、新しい社会的価値の創出や広く社会的課題の解決に寄与することを目的として本学教職員・大学院生向けの**関西大学発スタートアップ創出支援プログラム**です。**事業化に向けて、研究成果とビジネスの間のギャップを埋めるため**、仮説検証を目的とした実証実験や試作品の製作、さらにはビジネスモデルのブラッシュアップやマーケティング等を進めるための資金支援を含めた支援を行います。

詳細はこちら!
(KUGAP HP)



2026年10月より
公募開始予定!

支援対象	本学専任教育職員(特別契約教授を含む)および本学に在籍する大学院生
申請テーマの対象	① 本学にて実施された研究成果に基づいていること ② 本プログラム実施期間終了時に予定されている成果報告発表(Demo Day)で、申請テーマの概要・成果、事業化に向けたビジネスモデルを発表できること ③ 本プログラムの趣旨・目的に沿った研究開発や事業化活動を対象とし、起業前であること
助成期間	実施開始日から最大1年間
助成金額	1件あたり上限300万円(教員)/上限100万円(大学院生)



2026年度関西大学GAPプログラム (KUGAP) 追加募集採択者紹介

環境都市工学部 **滝沢 泰久**教授

採択テーマ **無線センサネットワークにおけるゼロトラスト・セキュリティ※・ソリューション**

研究期間 **2026年10月～2027年9月**

ゼロトラスト型無線センサネットワークにより社会インフラ管理の安全性向上を目指す

橋梁・トンネル等の社会インフラにおける構造健全性監視では、無線センサネットワーク (WSN) の活用が進んでいます。一方、屋外環境に配置されるセンサノードは物理的攻撃やデータ改ざんのリスクにさらされるため、取得データの真正性確保が重要な課題です。既存のAIベースの異常検知は十分な学習データを前提とし、検知精度にも限界があります。本研究では、外部機能に依存せず、センサノード間の相互監視により改ざんデータを自律的に検知・排除するゼロトラスト型WSNセキュリティ方式を開発し、社会インフラ管理の信頼性向上を目指します。

※**ゼロトラスト・セキュリティ** 従来のネットワークセキュリティは外と内を分離した「境界型防衛」。認証された内部は信頼し、外部のみを監視する (Verify and Trust)。それに対しゼロトラスト・セキュリティは、外部だけではなく、認証後の内部不正も想定して定期的に監視する (Verify and Never Trust)。



第2回「KSAC-GAPファンド」採択者紹介

システム理工学部 **稲葉 優文**准教授

採択テーマ **社会実装を目指した回転電極電界整列技術の放熱シート応用**

研究期間 **2025年9月～2026年8月**

AI拡大に伴い重要化するサーマルマネジメント 効率良い放熱シートの実装化に弾みをつけたい

世界的なAIの活用拡大に伴い電気使用量の急増、データセンタを冷却するための電源危機が叫ばれています。この研究は、サーマルマネジメント (熱管理) の課題意識に立ち、回転電極電界整列技術を応用して効率の高い放熱シートを開発するものです。我々の開発した放熱シートを使えば、冷却するために使用されている希少なレアメタルの使用量削減にも貢献でき、供給リスクに左右される可能性も低減できるなどの効果も期待できます。すでに、多くの反響をいただいでおり、このGAPで実施した実証実験を基に一気に実装化を進めていく予定です。

KSAC-GAPファンド 関西の大学・産業界など70以上の機関が参画し、起業家育成や大学発スタートアップ育成を目指すプラットフォームである関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC) がJST大学発新産業創出基金事業採択プログラムとして実施するGAPファンドプログラム。



イノベーション創生センター起業関連セミナー



審査員・聞き手に刺さる ビジネスプラン/ピッチ資料 作成のいろは

- 日時: 2026年10月22日 (木) 16:30～18:00
- 場所: イノベーション創生センター T-Space205-206
- 参加対象者: 本学教員・大学院生



株式会社ツクリエ
代表取締役
鈴木 英樹氏

主にKUGAP申請者を対象に、研究内容の事業化に向けたビジネスプランおよびピッチ資料の作成に関するセミナーを実施します。本セミナーを通してKUGAPの申請のみならず、学外でのピッチ等にも活用できるビジネスプラン・資料作成の作り方をレクチャーいただきます。

関大発

スタートアップ創出に向けた 支援紹介

詳細はこちら▶
大学発スタートアップ
創出支援



関西大学起業資金支援制度

研究活動の事業化を推進することを目的に、本学の学生および専任教員を対象として、「シーズ段階」から「アーリー段階」のスタートアップ企業に対し、起業時に必要な資金支援を行う制度です。



INPIT大阪府知財総合支援〈臨時窓口〉in 関西大学

研究者やスタートアップの知的財産等に関する相談に応じる窓口をINPITとの連携により学内に臨時開設し、本学URAが支援を行います。

●2026年度開催

【テーマ】 **起業準備の個別相談会**

実施日: 9/11(金)・9/24(木)・10/9(金)

【テーマ】 **M&Aを見据えた
知財・事業準備の個別相談会**

実施日: 9/30(水)・10/6(火)・11/6(金)



KSACものづくり支援窓口

KSAC-GAPファンドにおいて、試作品製作や実証実験等を実施するにあたり、製造業者や実証実験先を大学の起業プロジェクトに適切にマッチングすることを目的として、相談～仕様書作成～製作まで専門家がサポートします。



入居企業の 活動報告

▶株式会社アイ・エレクトロライトと株式会社ナノスパイクが、大阪府「令和8年度「第117回(令和8年度第1次)新技術開発助成」」に採択されました。

▶大阪冶金興業株式会社が、令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞技術部門」を受賞しました。



▶株式会社 Dincula が、9月2日、3日に開催された「TECHNIUM Global Conference」に登壇しました。

▶株式会社ナノスパイクが、6月18日に開催された第3回「関西みらいベンチャーアワード『みらいWay』」で優良賞を受賞しました。

▶株式会社ナノスパイクと株式会社 Phindex Technologies が、8月27日～28日に開催された「大学見本市～イノベーションジャパン」の「大学発スタートアップ展示」に出展しました。



みらいWay優良賞受賞

▶NPO法人日本サステナブルイノベーションーズが、セブソーイレブン記念財団の「2026年度 環境市民活動助成/未来へつなごう助成」に採択、同法人理事長の本学商学部3年次生 西田悠人氏が「東京都サキュラーエコノミー学生ビジネスコンテスト」最優秀賞を受賞しました。

企業名(五十音順)に表示

News & Topics イベント開催報告

イノベーターズ・ブートキャンプ

起業はもちろん、就職後も必要なアントレプレナーシップ(起業マインド)を醸成するイベント。活躍されている若手起業家や企業内で起業した社会人の経験談や想いから学びます。

Vol.42 2026年 5月29日

仲山考材株式会社 代表取締役
楽天グループ株式会社
楽天大学 学長

仲山 進也氏



まだ名前のない挑戦を どう始めるか？

～楽天創業期のリアルに学ぶ、
人生のイノベーションの起こし方～

楽天創業期に入社した仲山氏により、入社から楽天大学を立ち上げるまでの道のりについて講演と質疑応答を行いました。成功事例を学ぶだけでなく、自分自身の中にある小さな違和感や好奇心に目を向け、新たな一歩を考えるきっかけとなりました。



学生の感想

「自己を見つめ直すことができ、
今の悩みと向き合っていたと思った。」

Vol.43 2026年 6月11日

Japan Artisans 創業者

木谷 あゆみ氏

(パリ在住)



自律するための決断

～ゼロからパリへ～

日本の職人文化を世界へ届ける挑戦

パリを拠点に、日本の職人がつくる食品のブランディングおよび販売事業を展開する木谷氏。起業に至るまでの過程を語り、最後に「答えは学校にもAIにも本にもない。人間には考える力がある。自分と向き合って唯一無二の選択を。自信を持って!」と参加者にエールを贈りました。



学生の感想

「一度決断したことを信じ抜いて行動に移し
続ける姿が印象的で、私も考え抜いた決断を
信じ切って行動しようと思いました。」

Vol.44 2026年 6月26日

株式会社cizucu

代表取締役CEO兼CTO

太田 優成氏



写真で、人と世界をつなぐ。

～SNSとリアル展示が生み出す、
新しいコミュニティの形～

スタートアップとは「新しい常識をつくるチャレンジ」だと語り、誰も見たことのない価値を顧客に届ける楽しさと厳しさを、自身の体験をもとに伝えた太田氏。最後に「まずはやってみること。たくさんチャレンジしてほしい。」と締めくくりました。



自分の「すき」を届ける関大特別版
「photo poster project」を同時実施!

写真展に参加した学生たちが、それぞれ自身の
写真作品の前に立ち、作品に込めた「すき」や想い、
撮影に至った背景を語るギャラリートークも実施。

2026年7月15日開催 研究者向けセミナー 「良い研究」を「良いビジネスへ」社会実装のはじめの一歩をAIで

研究成果を事業化につなげるためのニーズの捉え方や用途仮説を構築する第一歩として、生成AIの活用方法を学ぶ講演とワークショップを実施。研究そのものの価値だけではなく、社会課題や市場ニーズとの接点を見出すことの必要性について、具体的な事例を交えて紹介しました。

また、ワークショップでは、生成AIを活用して用途仮説を探索する手法を解説。参加者は配布された専用のプロンプトを用いて自身の研究テーマやキーワードを入力し、生成AIとの対話を通じて研究成果の新たな活用可能性を見出す手法を学びました。

※本事業は大阪府事業SEEDS LINKの協力により実施しました。



編集後記

「創業と守成と孰れか難き」一唐の太宗が家臣に問うた有名な言葉です。本学に着任直後、社会安全学部が10周年を迎え、この言葉を題材に小文を書きました。その後の記念行事で、当時の芝井学長が壇上で同じ故事を引かれ、「あ、かぶった」と少しだけ凹みました(理事長、失礼ですみません)。あれから数年、今度はイノベーション創生センターが10周年を迎えました。ふだんは所属する社会安全学部がある高槻ミューズキャンパスにいますが、センターの仕事で千里山に来る機会が増え、多様な人が行き交う総合大学のエネルギーを存分に感じています。今号の対談にもあるように、異なる知や人が出会うことで新しい価値が生まれる。思いがけない「かぶり」にも、きっと新しい何かの種があるはず。(イノベーション創生センター 副センター長 社会安全学部教授 菅原慎悦)

関西大学 イノベーション創生センター
Kansai University Center for Innovation & Creativity

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
E-mail: kucic@ml.kandai.jp <https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html>

発行日/2026年10月1日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センター は、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの
『今』をご紹介します!

